

2017/2/28

## (日々雑感 特別編)



何かあるといけないので、一応、事実と、そこから類推される最もミニマムな範囲にとどめた事柄だけを記載させていただきます。

アメリカ発祥の就活支援サイト LinkedIn (リントトイン) の日本版に自分の詳しいプロフィールを載せるようになってから (株うと Q の休眠解除の下準備のため) 海外乃至はそれとおぼしきところからメールあるいは電話を受けるようになりました。

メールは、英語のものでは、シリアのアサド大統領の経済顧問と名乗るものから、あとは、ドバイの石油会社系銀行の顧問と名乗るものからの二件。いずれもかなりの回数で、コンサルティング業務の依頼およびこちらへの資金の送金に関するものでした。日本語のものでは、アメリカのさる大金持ちの重篤な病を罹患した孤独な老女から遺産相続の受取人になってほしいというもので、見たところ、かなり高度な自動翻訳を使って日本語化したものように思えました。話自体はかなりリアリティーがあったにもかかわらず、それに違和感を覚えました。ひとつは所々言い回しの変なのと、重篤にもかかわらずあまりにも長文で、しかも手間のかかる日本語化をしているのを変だと思ったのです。

三者ともかなりの長文で、しかも背景にちゃんとしたストーリーとその進展が毎回あるのです。かなり手間がかかっているのを感じました。我が国で言えば、超が付くほど高度化、巧妙化した「オレオレ詐欺」の海外版をイメージして頂くと分かりやすいかもしれません。

その後、本日、英語とフランス語 (高校時代に習っていたので、フランス語だとだけは分かりました) で emergency call と赤文字で iPhone のディスプレイに突然各一回フラッシング付きで表示され、その後 050 で始まる電話がかかってきましたが、出ると話し中の音がするだけでした。

丁度その頃、ある路線で電車事故があり、踏切が 25 分もあかない状態で向こう側にわたれないようなことに巻き込まれていたもので、登録してある鉄道会社からの緊急連絡だと勝手に思ってしまったのですが、日本の鉄道会社が英語、フランス語で emergency を告知す

るのは変だと思い、ひょっとして留守宅に異変があったのではないかと胸騒ぎも覚えたので、直ぐに Apple Japan Support に、気味の悪さもあったので問い合わせたところ、そのようなケースははじめて聞きました。確かに変です。050 で始まるのは IP 電話、つまり Internet Phone の略で、インターネット回線を使用した国際電話ではないかと思われまますとの見解。

それで、以降経過観察をアップル側で行い、上級のスペシャリストに報告しますからという報告と同時に着信拒否を指示されました。

普通の電話ではなく、IP 電話であれば、こちらがパソコン扱いの位置づけになるため、情報を抜き取りやすくなる、あるいはリモートサポートの技術を応用すれば遠隔操作もできるのではないかと恐くなりました（少なくとも以降は、050 で始まる着信には絶対に出ないことにしました）

事実、所在を隠すために、google の位置情報サービスをカットし、昨日も働いていないことを確認したばかりなのに、電話がかかってきた後で、google map を立ち上げてみると、航空写真付きの今の住居の俯瞰図と経路ナビが出ていました。

今度は、その旨、契約警備会社の担当者に連絡し、技術的にリモートが可能かどうか尋ねたところ、話自体をまるで理解できていないようでした。話がすすまないの、先般お会いした所長さんとのコンタクトを求めたところ、本日は休みだと言うので、明日は出るかと聞いたところ、一応その予定だがはっきりとは分からないとのこと。警備会社で出勤の予定が、しかも所長の予定が分からないとは？それで、更にセキュリティーを研究している部署はないのですか？と訊くと、?? の答え。

なんで、こんなことを根掘り葉掘り聞いているかという、占拠している家人の後ろに、確かに考えすぎかもしれませんが、家人が加入している（あるいは加入していた）アジア大陸に本拠を置く、インターネット検索をすると〇〇ジャパンとヒットする、現在福岡市が、その団体からの勧誘にたいして注意喚起を促している団体の存在が見え隠れするからなのです。その団体は加入維持、更新にかなりの金額を要求していたようなので、資金がなくなった家人が、入れあげている分、メンバー除籍を恐れ、加入継続のために資金源としてぼくを脅迫した可能性も考えられます。

以上が事実と最小限ミニマムの推測を施した内容です。

所轄警察署には報告していません。少なくとも担当者は「面倒くさがって」電話をがっちゃん叩き切るようなレベルだったので、前回報告以降、情報提供と支援を断念しましたので。

後日、所轄警察署の生活安全課ではなく、防犯講習を受けた際の司会をしていた危機管理室に再度話を持ちかけようかと思っております。

無論怪しげな電話とメールの件ではなく「無許可自宅占拠」の解決に向けた相談をするためです。その話の客観的裏付け事実として、今回の事実とミニマムな類推の話をしようかと、現在只今野時点に於いては考えております。

今の日本ではあり得ない話で、書いている人間の頭がおかしいのではないか？とおもわれることは想像に難くありません。

しかし、どんなに控えめに見ても、ぼくにとってはまごう事なき事実の範疇に入る事柄なのです。

軍事兵法の考え方が自然と身についてしまう理由なのです。